

大学院 人間科学研究科 臨床心理学専攻 修士課程 入学試験問題・解答用紙

専門科目「臨床心理学」 1/5

注意 (1) すべての問題用紙・解答用紙に受験番号を明記すること。

(2) 試験時間内の退室はできない。

I. 次の記述の () に当てはまる最も適当な語句、人名または数値を解答欄に記入しなさい。【2点×12】

1. 脳はニューロン（神経細胞）とグリア（神経膠細胞）の2種類の細胞から構成されており、ニューロンとニューロンの結合部を () と呼ぶ。
2. 視野の中の多数の刺激はバラバラに知覚されるのではなく、まとまりを持った塊として知覚される。これを () と呼ぶ。
3. () 効果とは、先行する刺激の処理によって後続する刺激の処理が促進または抑制されるものと定義される。
4. () は、学習者が直接経験したり強化を受けたりせずにモデルである他者の行動を観察することによって、その行動を学習する観察学習を提唱した。
5. 情動の生起について「悲しいから泣く」のではなく「泣くから悲しくなる」とした考えは、同時期に感情体験における心臓血管系や内臓系の重要性を強調した説と共に () 説と呼ばれている。
6. 勉強をしようとしていた時に「勉強しなさい」と言われるとやる気をなくすような、ブレイムによって提唱された「人が自由を制限されたときに、それに抗おうとする性質」を () という。
7. 「生活の中でどの領域に最も価値を置くか」という価値志向による6類型を唱えたのは () である。
8. 学習が成立するために必要な学習者の心身の準備状態のことを () という。
9. 心理・社会的問題や生活上の問題、健康上の問題を抱えている人など、自殺の危険を抱えた人々に気付き、声を掛け、話を聴き、必要な支援につなげ、見守る人のことを () という。
10. 生活年齢が8歳4か月の子どもの知能検査を行った結果、精神年齢が9歳1か月であった。この場合のIQ（比率IQ）を算出すると () となる。
11. ある集団に対して心理学の試験をしたところ、平均が65点、標準偏差が9であった。この集団の構成員であるAさんの点数が83点の時、その偏差値〔T得点〕は () となる。
12. 文部科学省の調査では、「不登校児童生徒」は「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間 () 日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由によるものを除いたもの」と定義されている。

I. 解答欄

1		2		3	
4		5		6	
7		8		9	
10		11		12	

1. 脑波

3. 認知的不協和理論

4. フレイルとサルコペニア

Ⅲ. 心理学研究における尺度水準について、分かりやすく説明しなさい。【10点】

採点欄

大学院 人間科学研究科 臨床心理学専攻 修士課程 入学試験問題・解答用紙

専門科目「臨床心理学」 3/5

IV. 次の記述の () に当てはまる最も適当な語句または人名を解答欄に記入しなさい。【1点×18】

1. 論理療法は (①) によって創始された心理療法で、悩みを引き起こすような出来事が非合理的信念や思い込みを通じた結果、否定的な感情や問題、悩み、症状をもたらすとする (②) に基づく。
2. (③) とは、治療に対する否定的・反発的態度をいう。たとえば面接中に黙ってしまう、約束の時間に遅れる、連絡なく来室しないなどがこれに該当する。(④) 的心理療法における非常に重要な要因で、自己理解への糸口となるが、面接中断の危険性を併せ持つ。
3. (⑤) は、生後数週間育児に没頭でき、乳児の必要を感じとり、それに応えられる平均的で平凡な普通の献身的な養育者こそが、子どもの自我の発達にとって重要であると考え、これを (⑥) と呼んだ。
4. (⑦) とは、不安の低い段階から順番に不安を感じる対象に曝露し、それと拮抗する不安制止反応を用いて不安や恐怖を緩和しようとする、行動療法の1技法である。このとき作成する表を (⑧) と呼ぶ。
5. (⑨) では悩みを言語で構成されたものとする。症状や問題行動の背景には、言語の世界が大きくなりすぎて「私」をふりまわしている状態や、その苦痛から逃れようとして、ますます悪化していく状態があるとされる。このうち「言語の世界が大きくなりすぎて『私』をふりまわしている状態」を (⑩) と呼ぶ。
6. (⑪) とは、自己理解や他者理解を深めるという個人の心理的成長を目的として、1~2名のファシリテーターと10人前後の参加者のクローズドの小集団による、そこで起こる関係を体験しながら互いに語り合うことを中心とする、集中的なグループ体験をいう。一方 (⑫) とは、ファシリテーターが主導権をとって、課題を与えたりエクササイズをさせたりするグループである。
7. 教室で奇声を発する児童の事例において、「注目されること」が (⑬) になっていると判断し、知らん顔をして (⑭) を除去することで症状を消失させようとした場合、これは (⑮) 条件づけを理論的背景とした行動療法的な援助である。
8. 妄想分裂ポジションや抑うつポジションの理論を提出した (⑯) は成人同様、子どもも分析者に対して (⑰) が成立するとし、遊戯療法における児童の遊びや言語内容を成人の自由連想と同様に捉え、象徴的に分析家が中立性を保ちつつ解釈することができると主張した。
9. (⑱) は、日常の場面が描かれた漫画風のイラストを呈示し、空いている吹き出しの中に記入させる台詞から、パーソナリティを理解しようとする心理テストである。クライアントの (⑲) への反応を知ることができる。

IV. 解答欄

①		②		③		④	
⑤		⑥		⑦		⑧	
⑨		⑩		⑪		⑫	
⑬		⑭		⑮		⑯	
⑰		⑱					

V. パーソン・センタード・セラピーについて以下の問いに答えなさい。

1. パーソナリティ変化のための必要十分条件(Rogers, 1957)のうち中核3条件(一致、無条件の肯定的関心、共感的理解)について簡潔に説明しなさい。【4点×3】

(1) 一致

.....

.....

.....

.....

(2) 無条件の肯定的関心(unconditional positive regard)

.....

.....

.....

.....

(3) 共感的理解(empathic understanding)

.....

.....

.....

.....

大学院 人間科学研究科 臨床心理学専攻 修士課程 入学試験問題・解答用紙

専門科目「臨床心理学」 5/5

2. 不一致 (incongruence) の発達について、価値の条件 (conditions of worth; Rogers, 1964) の観点から説明しなさい。【5 点】

.....

.....

.....

.....

3. フォーカシング指向心理療法 (Gendlin, 1998) におけるフェルトセンス (felt sense) について説明しなさい。【5 点】

.....

.....

.....

.....

VI. 以下の事例を読んで下記の【問】に答えなさい。【10 点】

(事例)

教室になじめないことを主訴に中学校のスクールカウンセラー (SC) のもとに来談し、1 年以上カウンセリングを受けている中 2 女子 A。A は来談当初こそ緊張の強い様子であったが、次第に自分の好きなアニメの話や、話のできる友達がいないこと等を語るようになっていく。面接を重ねるなかで、A が幼い頃両親が離婚しており父親に育てられていること、自分の容姿や性格等について悩んでいること等を打ち明けるようになっていった。ところがその後 SC の異動が決まり、A のカウンセリングを継続できないことになった。後任の SC は決定しており、A とのカウンセリングは残り 3 回となっている。

【問】このとき SC はどのように対応すればよいか。あなたの考えを述べなさい。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

採点欄

--